

## 昭和飲み屋空間におけるテキストマイニングに関する研究 ～昭和時代と現代を比較して～

都市空間生成研究室  
1641130 服部 海子

テキストマイニ グ	昭和	現代
再開発	飲み屋	闇市

### 1. 研究の目的と背景

本研究は、戦後の闇市がルーツの呑み屋街かつ大規模再開発が行われていない街区と、再開発が行われた後に、飲み屋街として名が広がった空間を対象に、飲み屋の表出する文字情報を調査し、昭和飲み屋空間と現代飲み屋空間のテキストマイニングを通じて、文字情報が空間特性にどのように影響しているのかを分析することにより、昭和飲み屋空間においてのテキストマイニングから見た空間の違いを明らかにすることを目的とする。

今日、2020年のオリンピックに向けて多くの場所で再開発が行われている。そんな中、再開発によって昭和飲み屋空間、また飲み屋自体も消失、減少しており、親しみのある空間の消失を惜しむ声がある。そこで、実際に古くから親しまれていた飲み屋の違いとして看板に着目することで、分析を試みる。

### 2. 研究の方法

本研究では、昭和飲み屋空間と現代飲み屋空間において、それぞれの街区のテキストから見た特徴が表れているという仮説に立っている。これを実証するため、次の順序で研究を進める。

- ① 対象地域にて写真を撮影
- ② 外に出ているメニューも含めたすべての文字を収集
- ③ エクセルで数をまとめていき、事例間において数に違いがあるか調査
- ④ 現代においてサンプリングされた、また昭和時代において現代空間で表すことのできていない昭和空間特有の言葉があるかを調査・分析する

### 3. 昭和飲み屋空間と現代飲み屋空間

#### 3-1. 用語の定義

本研究では、昭和飲み屋空間の対象地に、戦後の闇市がルーツの呑み屋街かつ大規模再開発が行われていない街区を選定とすることから、昭和飲み屋空間を、戦後闇市由来の飲み屋空間と定義する。また、現代飲み屋空間

の対象地に、再開発が行われた後に、飲み屋街として名が広がった空間を選定することから、現代飲み屋空間を、新規一体型の飲み屋空間と定義する。

#### 3-2. 対象地域

本研究では、対象事例を飲み屋街として人気が高く、なおかつ昭和飲み屋空間では実際に開発が決まっている街区、また現代飲み屋空間では昭和空間を演出していない街区を選定した。

〈昭和飲み屋空間〉

①三軒茶屋 三角地帯

②立石 呑んべ横丁

〈現代飲み屋空間〉

③中目黒 中目黒高架下

④丸の内 (marunouchi) HOUSE

#### 3-3. 対象街区の歴史と変遷

①三軒茶屋 三角地帯

ルーツは闇市であり、戦後よそから人が集まり昭和 24 年に商店街が誕生した。東京オリンピック後の国道 246 号線の拡張、東急多摩川線の廃止、また首都高速の開通により渋谷へと人が流れたため、手つかずのまま現在に至っている。

②立石 呑んべ横丁

昭和 29 年に商店街として誕生した。当時は、一階に日用品を扱う個人商店、二階に住居を設けていた。その後、商店から飲み屋へと形態が変化し現在に至っている。

③中目黒 中目黒高架下

東急電鉄により、2016 年 11 月にて誕生した施設であり、中目黒駅周辺の高架下空間を約 700m に渡って線状に開発するプロジェクトである。

④丸の内 marunouchi(HOUSE)

誰もが持っている丸の内のイメージを変えるために、大人たちが自由に集い、憩い、語られる次世代型交流ゾーンとして、2007 年 4 月に、三菱地所により開発された。新丸の内ビルディングの 7 階に位置する。

#### 3-4. 各対象街区の事前調査

事前調査として、各街区における客単価、開店時間、

閉店時間を調査した。

#### ①客単価

中目黒においてはすべてのお客のニーズに合わせた店を集めており、三軒茶屋と立石において単価の不明な店舗が多く見受けられた。

#### ②開店時間

中目黒において開店時間が早い店舗が多く目立ち、立石においては、不明な店が多いものの、全体的でほぼ均等に開始時間がバラついている。

#### ③閉店時間

三軒茶屋と立石においては不明な店舗が多く見受けられた。

### 3-5. 対象物体

店前にあるすべてのテキストを対象とすることから、袖看板、溢れ出し看板、暖簾、提灯、チラシ、張り紙、また外に出ているメニューにおいて調査を実施する。

## 4 .調査結果

### 4-1. 目視による分析

各街区に行き写真を撮影。その後、出現数の多いもの、街区の特徴となるテキストをピックアップし、共通となる街区の特徴が何かを調査。

①三軒茶屋 三角地帯 “親近感と温かみがある地域の歴史を保全する街区”

「おかえり」、「お疲れ様です」などの、家にいるような温かさと、言葉から感じられる距離感の近いテキストが多く見受けられた。また、「松竹梅」や「嫌煙家」などの現代では目にする機会の少ない表記が多く使用されている。

②立石 呑んべ横丁 “親近感がありながらもいかがわしさを払拭し安心感を演出したい街区”

「ポスト」、「消火器」、「自転車」などの日常的に見る機会の多いテキストが多く見受けられた、また、「東京都」、「警視庁」、「済」などの正式な場面で多く使用されるテキストも多く使用されていた。そのことから、親近感がありながらもいかがわしさを払拭したいという気持ちのある街区であるといえる。

③中目黒 中目黒高架下 “お客に対して積極性と謙虚さのある街区”

「旨い」、「話題」、「オススメ」、「コース」、「!!」など勢いのある言葉が多く使用されていることから、商店から来訪者に向けてアピールをしているテキストが多く見受けられた。また、文頭の「お」、ですます調が多く見受け

られたことから、丁寧な言葉使い低姿勢がうかがえる。そのことから、積極性のある謙虚な街区であるといえる。

④丸の内 (marunouchi)HOUSE “各店舗のテーマが光る統一性のない街区”

多く見受けられたテキストはあるものの、他街区に比べて抽出されたテキストが少なかった。また、テキスト間において共通のイメージとなるワードの抽出が不可能であった。そのことから、コンセプト通り、テキストにおいても個性が存在し、統一性のない街区であることがいえる。



図 1. 分析事例（左：三軒茶屋、右：中目黒）

### 4-2. データより精査

実際に街区の特徴として選出したテキストが実際に使用されているかを精査。また、実際にどの程度、どのテキストが使用されているかを調査。

①三軒茶屋 三角地帯

選出した各テキストの店舗使用率から、店舗によって言い回しが違い、店舗ごとの特徴があることが言える。

②立石 呑んべ横丁

選出した各テキストの店舗使用率は低いが、そのような街区の特徴となるテキストを多くの店舗が各々使用している。

③中目黒 中目黒高架下

です、ます調、ご、OPEN や※の出現率は大多数の店舗が使用しており、多様な店舗が揃う中でも、一貫した統一性がある。

④丸の内 (marunouchi)HOUSE

特徴となる言葉は数が少ないうえ、店舗使用率も低いことが言える。

## 5. 結論

各事例を比較した際に、テキストの表し方に違いが見受けられ、その街区の特徴となるテキストが浮上した。

しかしその中でも、昭和飲み屋空間であるに街区においては、共通して親近感のあるテキストが特徴として表れた。昭和飲み屋空間特有の雰囲気は、この親近感あるテキストが自然と発生していることから生まれているといえる。